

死無季ぬ朝は野にあかがねの鐘鳴らむ

藤田湘子

湘子先生ご逝去の前年九月、鷹の長野指導句会に参加した折、腸閉塞手術の回復期で痩せられ、国連のアナウンサー事務総長のような髭を伸ばされた顔の先生にご挨拶。

「これから頑張ります」と言うと、「遅い」と叱責され、すでに死の予感が身近にあるのだろうと思われた。

ご逝去は、平成十七年四月十五日午後一時八分。前後の事情は、ご家族から直接お伺いできず明確ではない。

しかし、残された自筆句帳から、小川軽舟編集長が拾って、鷹誌5・6月合併号に二十一句を発表。そのまま全句が遺句集『てんてん』に収められた。最終句は「草川の水の音頭も春祭」であった。大学で鍛金を学んだ私には、「あかがねの鐘」は湘子の声である。

2005年 (h17作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩